



図

★ ケーキショップ・アンテ

ノールが武庫之荘にも誕生
神戸・北野町のアンテノ

ールが2月14日、阪急武庫

之荘南駅前にオープンした
アンテノールのテーマカラ
ーであるうすいグリーン

の外装と、白とベージュで

統一されたシックな店内が

とてもマッチしている。



アンテノール武庫之荘店

リッヂでお洒落なデザート
空間は今、ヤングにもアダ

ルトのあいだでも人気上昇
中！

年中無休 A.M.10:00 P.M.10
☎ 06-438-9694

★トルコ料理の店
「イスタンブール」

神戸では珍しいトルコ料
理の店「イスタンブール」
が2月1日オープンした。

ワシントンホテルの東隣シ
ンミチビルの地下。流行の
立ち飲みバブとレストラン
を融合させた感覺、セルフ

サービスのため値段の安い
ハンサムなマスター藤田
ことなどが特色。



イスタンブル

家藤田清照氏の御子息。最
欣矢さんは中近東を描く画

す。

また、毎夕、ギターの弾
き語りやシャンソンのライ
ブを楽しむこともできる。
ランの花で飾られたこの

両コーナーとも贅沢なスペ
ース取りで、ゆったりとく
つろぐことができる。

パン、ケーキなどのティ
クアウトコーナー、ティー
&ケーキ、ライトナック
などの喫茶コーナーと2つ
のコーナーに分けられる。

両コーナーとも贅沢なスペ
ース取りで、ゆったりとく
つろぐことができる。

また、毎夕、ギターの弾
き語りやシャンソンのライ
ブを楽しむこともできる。
ランの花で飾られたこの

近までお姉さんが大阪で同
種の店を開いていたそうで
一家揃ってのトルコ料理通
はいかが。

トルコ文化に想いをはせて
コーヒー豆もトルコから
輸入とか。食事をしながら
トルコ文化に想いをはせて
はいかが。

★ 第4回新春名刺交換会

2月11日(土)、神戸チサ

ンホテルにて全日本バ
ンダーワーク協会神戸支部(A

・N・B・A支部長明石章
敬)と社団法人日本バーテ

ンダー協会神戸支部(丁・
B・A支部長榎晴夫)との

新春名刺交換会が、盛大に

行われました。

交流をお互いに持つため
に始めたこの会は、4

に始められたこの会は、4

● 神戸うまいもん
とドリンクング
神戸精養軒
ポートアイランド支店
神戸高校前が本店の神
戸精養軒はオリジナルな
欧風料理で食通にはつと
有名だが、この3月1
日ポートアイランドに新
支店が誕生した。

ポートアイランド支店
☎ 078-302-3818



ポートアイランド支店

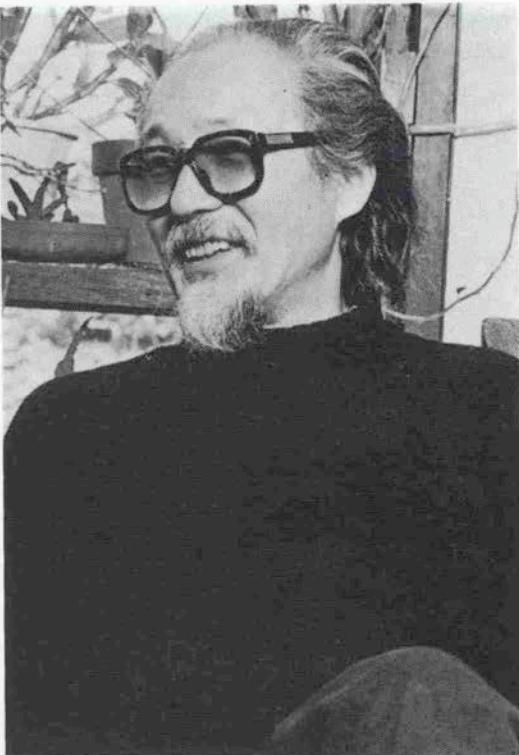
人気メニュー欧風特選
小皿料理(一人分¥450円、
要予約二人以上)をはじめ本
店仕込みの味をそのまま
受けつけ。定食(朝昼夜)
も450円からあり、値段の
方もうれしい限り。海の
幸、山の幸、肉の味が堪
能できる。

1階レストランは44名
2階集合室は40名が利用
できる。場所は神戸大橋
をおりすぐ。駐車場あ

り。2階集合室は44名
2階集合室は40名が利用
できる。場所は神戸大橋
をおりすぐ。駐車場あ

文明に逆らつて、 ホモ・ルードンス

中西 勝〈画家〉 VS 多田智満子〈詩人〉



「多田さんみたいに物知りの方と旅したら面白いだろうなあ」中西さん

ているような土地がね。

多田 文明が進歩すると自然から逸脱してしまう。だから面白くなる。人間って土から生まれたのですから、それがないとね。中西さんは生活全てが土に密着していますね。

中西 どこが面白いってメキシコ、モロッコ、トルコ辺りほど面白いところはないですからね。でも初めはメキ

シコやモロッコがどこにあるかも知らないくらい、そんな調子で旅していたんですよ。僕は昔から董やその民族が使っている生活必需品、素朴な民芸品などが好きでね、そういうものを使っているような国へ行きたかった。で、そういう国に出会った感じがするね。

多田 私もいわゆる文明国に興味がなくてね、ギリシャやエジプトのようない今はダメになってる古代の文明国が好きなんですよ。中西さんもモロッコやメキシコなどの現在の土俗的な感覚がお好きなんですよ。

中西 そう、大昔と同じ生活をして

いるような土地がね。

以前の庶民のものを見ると何か温かいもの感じるでしょ。

多田 人の肌の温かみね。先程、お宅をあちこち拝見させて頂いてそれを感じたんですよ。私、こんなに素敵なお宅へ伺うの初めてです。お庭も建物もすみずみまで手造りの感覚でこんなに沢山の民芸品のコレクションがしつくり調和していて…。お家全体が中西さんの一つの大きな作品のようですね。

中西 いやあ、ありがとうございます。もっと自慢しましょか(笑)。多田さんが今座つておられるそのマットは一昨年モロッコのマラケシュで買ったんですよ。ベルベル族が田舎で作ったもので、街まで何十里も歩いて運んでいって絨緞屋に売るんです。でもね、絨緞屋も商売だからなかなか買ってくれない。で、あっちこっちの絨緞屋を行き来しているうちに日が暮れちゃう。するとそのベルベル族のおじさん淋しそうな顔して帰っていくの。でもこんないい模様、他にないでしょ。

多田 ほんとに。ところで中西さんのお宅の庭なんです



「でも中西さんみたいに自由な旅なさる方が現在を楽しめますよ」 多田さん

が、野菜や香草は育てておられるし、煉瓦も手作りだしとっても創造的に楽しんでおられる。私なんか庭は植木

屋さんに任せて…なんてつい楽なこと考えますけど。

中西 でもね、たまに植木に詳しい人が家が来るとね、これは良くないから…と言つて枝をボーンと切られてしまう。僕はゾツとして「切るな！」って止めるんですけど。植木屋って、木が良く育つように切るから造形的じゃない、僕はある程度視覚的に満足いくような僕なりのコンポジションで庭を造りたいから余り切つて欲しくない。

中西(咲子夫人) だから時々木に迷惑かけてしまうのね。

中西 そうだな。でもそういう考え方は僕自身の生き方として庭だけじゃなくて他の面にも表われてるな。だから人にも迷惑ばかりかけてる(笑)。

多田 でも何でも手でいじくって楽しむってことはいいことですよ。中西さんこそ本当のホモ・ルーデンス(遊ぶ人)ですね。

中西(咲) 楽しんないと生きられないのね。これもち

つてるんじやなくてね、いつも考えてるんですよ。絵を描いて、庭をどうしようか考えて、と人生長いか短いか知らんけれどあれこれ結構忙しいなあ。でも思い切り生きてる感じ、しますよ。

エフェソス亀物語

多田 中西さんはギリシャ方面に

は行かれました?

中西(咲)ええ、トルコからイタリーへいく途中、車でオリンピア

を抜けたことがあるんです。でもオリンピアの遺跡つて柱がほとんど立つてない。何もなかった。

多田 あの辺はほとんど廃墟で、石柱もみんな倒れて巨人のダルマ落としみたいに、石臼のようなものがゴロゴロ転がってる。

中西 トロイの遺跡も行つたけど小さい所だったなあ。

小屋のようなみやげ物屋が2軒ほどあってね、そこの主人が分厚いサイン帳持つて「あんた、ジャパンーズ？」サインプリーズ」って言う。で、そのサイン帳見ると前のページにギリシャの研究してるどこかの大学教授が「ここへ来てがっかりした」って書いてるの（笑）。それくらいがっかりするような所だった。

多田 あそこはシリーマンが掘り尽くしてしまいましたからね。

中西 でもあそこはね、昔海底だった所が地表に上つてきてるから貝の化石が沢山あってね、手頃なやつをいただいてきたの（笑）。

多田 実は私も、クレタ島のパエストスっていう余り監視が厳しくない遺跡で、紀元前2千年頃の大ガメのカケラなんかがあつて、絶対拾っちゃいけないんですけど捨てる状況なんですね。頂いてきましたの（笑）。

中西（咲） トルコ辺りの遺跡も番人がいないの。山羊が昼寝しててのどかでね。もちろん立派な円柱とかも残っているんですけど、入るなり私達2人とも下向いてね（笑）。何かないかって探しだしたの。多田さんはトルコ沿岸に行かれましたか。

多田 エフエソスへは一度行きました。

中西 そうそう、エフエソスの遺跡へ行つた時ね、カーン、カーンって奇妙な音が響いてたんですよ。で、女房と2人でその音に近付いていくとね、大きな陸ガメが2匹いてね、1匹がもう1匹にカーンと何度もぶつかつてた、その音だったんですよ。一体何やってるんだろうって良く見るとカメのランデブーだったんですよ。雌のカメに雄のカメが後ろからカカンカバンつかつて、きれいな

音を出してやつてたの。

中西（咲） 10月の半ばでしたね、澄みきった青空のもとでカーンと冴えた音がして、でも何とも不可思議でした。

中西 ある日、友人のモハメッド君と女房と3人でモロッコのラバートにある日本大使館へ用事で行つたんです

よ、するとその大使さんが世界に3人カメのコレクターがいるって言う。ソ連のキエフに1人、ロンドンに1人、そしてもう1人がその大使さんなんです。で、任地が変わったびに80匹のカメと一緒に移動してる位のカメ種類のカメがいて、そのうち3、4種類泣くカメがいるって教えてくれた。泣くってことはつまりセックスの時に声が出るってことね。

中西（咲） エフエソスのカメは泣かないカメだったのかしら。

中西 その後、神戸で今は亡き俳人の赤尾兜子さんの出版記念パーティーに行つたの。その時に梅原猛さんが挨拶されてね、赤尾さんの「亀鳴くや山彦淡く消えかかる」っていう句を詠まれて亀鳴くという表現の巧みさを大変ほめておられた。誰も亀が鳴くなんて思ってませんよね。それで僕、後で赤尾さんに「鳴くカメほんとにいるんだよ。知らんかったやろ」と言つてやつたの（笑）。

多田 私もカメの泣き声なんて聞きたかったな…。ギリシャでカメは見ましたけれど、やはり水気の全然ないカラカラにかわいた遺跡で陸ガメでした。イソップのウサギとカメの話も陸ガメでしょう。私がエフエソスで面白いなと思ったのはね、ローマ帝政期頃のとても立派な書館の遺構があるんですが、その向いに女郎屋があるんです。エフエソスは昔、港町でしたから船乗りが大勢出入りしていたんでしようね。で、その女郎屋に向かう石畳の道の上に、女郎屋の方を向いた足型と女の絵が彫つてあつたんです。つまり、あっちへ行くと女がいるよ、って示しているわけ。あの頃の船乗り達は文字が読めなかつたから、あんな目印でお客をひいていたんでしょうね。

ね。

中西(咲) でも多田さんみたいに物知りの方と二緒だった旅ももっと面白いでしょうね。

中西 僕たち歴史も地理も何も分らんと回ってる(笑)。多田 でも、それだと純粹に現在を楽しめるでしょ。私なんか悪いクセでつい古代のことばかり考えてしまつて。中西さんのような自由な旅がやっぱいいですよ。

中西 僕達はね、行きあたりばったりで、キャンプしたり、田舎の幼稚園に泊めてもらつたりするんですよ。モロッコには、絵具箱も預けてあるんです。車で行く時は



アトリエにて。このアトリエの下には動の部屋（中西先生の民芸品コレクションが山積み！）と静の部屋（閑静な茶室）がある。



中西先生ご自慢の韓国砂糖壺。ありが入らないように周囲に溝がある。こんな壺が家中にごろごろしている。



奥様の咲子さんは今、一弦琴に夢中。古い琴を削って、目下手作りの一弦琴を製作中。

がある。阪急六甲駅の少し南にある「カウボーイ」っていう喫茶店なんです。夜に行くと裸電球の灯りがいい感じなんですが店はボロボロ。汚い紙に墨でCOWBOYって書いてあるの。もう終戦後にもなかつたくらい汚いところでね。おじさんが一人でやつてる。

中西(咲) そうなの。ルンペーンが喫茶店やつてると思つてまちがいないわね(笑)。

中西 トイレのドアは空け放し、「使用する時だけ閉めて下さい」って断り書きがしてある。なぜ閉めるといけないかっていうとね、換気口がないから臭いがこもる

んですよ。

多田 でもその臭いはお店の方に漂つてきますよね。

中西 ニューヨークにいた時は、女房はモグリで高島屋でアルバイトしたりね。

中西(咲) 従業員もいいところ（笑）。でも旅で従業員やるのって楽しいですよ。

中西 そうそう、多田さんにぜひ行っていただきたい所

カウボーイの主人はたいしたものです

中西 乾かしてます。前に日銀の店長さんを連れて行った時は、カウンターに座ったんだけど、そこに汚い空缶の灰皿が置いてあるの。で、カウンター越しにそのおじさんがいて新聞紙で鼻をかむんですよ。それも1回かんで、

広げて見て、その紙を2つに折つてもう1回かむのね。それを丸めてそのままの空缶に捨てるもんだから、日銀の店長さんびっくりしてしまつてね(笑)。それからやつとコーヒーがくるんですが、味はいいけどカップがまたすごく汚い。

多田 ちゃんと洗つて下さつてるかしら。

中西 それは分りませんわ(笑)。

多田 前のお客のをポンと空けただけ:(笑)。

中西 それに近いと思って下さつて結構でしようね。ところがこの店には沢山のペーパーバックスなんかの英語の本があつてね、おじさん英語の本読んで、新聞広告の裏に英語書いて勉強してるの。「おっちゃん、今日はどないや?」つ

て聞くと、今読んでる英語の本のストーリーでようね、「それがね、あれからトムがこ

うなつてね……」って話し出すの。その時のおじさんの眼がキラキラ輝くんですよ。僕ね、嬉しくておじさんが8年間使つたボロボロの英和辞典を1万円で買わせてもらつたんです。そうかと思うと「やりましょか」と言つて、禿げたメキシカンギター弾いて、英語の歌を歌いだす。その英語はさっぱり分らないんだけど(笑)、おじさんは「歌つて上手、下手なんてない。好きなように歌うもんや。カウボーイは皆そや」って言うの。本当にそうですね。

多田 それが本当でしようね。好きな時に好きなように歌う、というのが。そのコーヒーは一杯おいくらですか。

中西 この店はコーヒー400円もするんですが、1日にお客が5人位しか来ないですよ。おじさんは1か月1



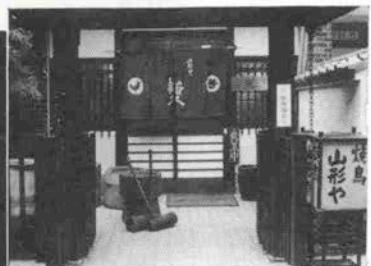
中西さん宅の応接間で、旅の話が弾む。子犬のジャックはずっと多田さんのひざの上。

万5千円で生活している。米は食べたことがなくて、お客様についてだコーヒーの残りをうまそうに飲んでる。お客様がいない時は寝ていて、でも、僕がたまに行つて、「今度展覧会があるから見に来て下さいよ」って言つても「忙しくていけないよ」って言われるんです。「僕もここに何度も来てるやん」って言い返すと、「でも、わしこ度も来てくれ言つたことありませんよ」って。そういうえば、そんなでテーブルの下、こんなに汚ないんで「忙しくてね」って言っても「忙しくて」っていわれてしまう。「なんでもテープスミたいて、構の中で寝ないだけましかも……(笑)。

中西 そのおじさんはいつも店で寝泊りしてるからね、彼が起きた時刻が開店時間なんです。だから元旦でもあいてる。それで、たまに一緒にここへ来る韓国日報の神戸支局長がね、何とかこの店をはやらせようとアイデアを出した。この店に電話をひいて、元旦に、常連に電話をかけて集めようつてね。するとおじさん「来たい人は勝手に来ます」と言つて全然乗つてこない。「来たくない人に電話かけて呼び出さんて失礼ですよ」と言うの。その支局長も「わかった、わかった」ってあきらめたけど、何言つてもだめなんです。僕は色んな人をあの店に連れていきましたが、二度と来たくないっていう人とまた行きたいっていう人と半々ですね。今度、ぜひ一緒にいきましょう。

多田ええ、ぜひ。

(カメラ・渡辺泰臣)



お客様にお出しする器は
すべて古陶器の逸品です。

料理を盛りつけた器は、いずれも味わいのある古陶器。季節の風味とともに、全国から丹念に集めた器の肌触わりをもご賞味いただけます。眼で舌でお楽しみ下さい。
※コース（皮・ズリ・きも・ねぎ身・ミニチ・野菜2種類）の他に、山菜釜めし、筍釜めしの美味しい季節です。



山形や 裕久

焼鳥 釜めし

神戸市東灘区本山北町3-11 本山市場東（阪急岡本・国鉄摂津本山各駅から徒歩3分）

電話 (078) 452-2905 午後5時～10時 月曜休（駐車場が近くに変わりました）